

栃木県わがまちつながり構築事業計画書(市町総括表)
【単独 連携事業】

市町名	真岡市
-----	-----

(単位:円)

No.	単位事業名	令和3(2021)年度	令和4(2022)年度	令和5(2023)年度	令和6(2024)年度	令和7(2025)年度	合計	
1	「もおか環境パートナーシップ会議 環境保全活動」事業	総事業費	730,380	733,155	723,647	773,713	720,000	3,680,895
		うち市町支出額	720,000	720,000	720,000	720,000	720,000	3,600,000
		うち県交付金	360,000	360,000	360,000	0	0	1,080,000
2	真岡まちづくりプロジェクト事業	総事業費		755,937	392,370	265,078	1,620,000	3,033,385
		うち市町支出額		755,937	392,370	265,078	1,620,000	3,033,385
		うち県交付金		323,673	161,679	95,189	0	580,541
3	もおか木綿フェスタ	総事業費			819,070	806,852	1,100,000	2,725,922
		うち市町支出額			734,870	736,352	1,000,000	2,471,222
		うち県交付金			367,435	353,610	500,000	1,221,045
4	真岡いちごまつり	総事業費			3,685,580	4,450,240	4,143,000	12,278,820
		うち市町支出額			1,680,000	2,000,000	1,680,000	5,360,000
		うち県交付金			840,000	1,000,000	840,000	2,680,000
5	真岡市音楽祭	総事業費			2,071,892	2,236,449	3,100,000	7,408,341
		うち市町支出額			1,936,868	2,129,449	3,000,000	7,066,317
		うち県交付金			1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000
6	桜町陣屋跡ふれあい保存と活用事業(尊徳さんの田んぼで米づくり体験事業)	総事業費			753,289	756,016	728,907	2,238,212
		うち市町支出額			400,000	400,000	400,000	1,200,000
		うち県交付金			200,000	200,000	200,000	600,000
7	真岡井頭マラソン大会	総事業費			6,945,057	8,805,746	7,330,000	23,080,803
		うち市町支出額			2,236,000	2,936,000	2,236,000	7,408,000
		うち県交付金			1,118,000	1,468,000	414,000	3,000,000
8	栃木SC支援事業	総事業費			1,110,370	1,158,080	1,134,000	3,402,450
		うち市町支出額			600,000	600,000	600,000	1,800,000
		うち県交付金			300,000	300,000	300,000	900,000
9		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
10		総事業費						0
		うち市町支出額						0
		うち県交付金						0
市町計	総事業費	730,380	1,489,092	16,501,275	19,252,174	19,875,907	57,848,828	
	うち市町支出額	720,000	1,475,937	8,700,108	9,786,879	11,256,000	31,938,924	
	うち県交付金	360,000	683,673	4,347,114	4,416,799	3,254,000	13,061,586	

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	真岡まちづくりプロジェクト事業
事業主体の名称	真岡まちづくりプロジェクト
代表者の名称	事務局長 黒田 次子
事業主体の所在	栃木県真岡市荒町5191番地
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:市民協働、官民連携による、真岡市のまちづくりに資する活動に取り組み、中心市街地活性化を図る。 ・設立年月日:令和4年3月1日 ・構成員等:構成員7名 事務局4名
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・真岡市には真岡地区と二宮地区に中心市街地があり、そこには県指定文化財の岡部記念館「金鈴荘」(真岡地区)、二宮コミュニティセンター(久下田地区)等の活用されていない公共空間が多く存在している。 ・「選ばれるまち もおか」を実現するためには地域の担い手の創出・確保が重要である。本市においても少子高齢化が進展しており、地域の担い手が不足していることから、新たな人材の育成等を進めていく必要がある。
事業目的	中心市街地にある低未利用の公共空間を活用する集客事業などの社会実験を通して、中心市街地へ人を呼び込み、地域の賑わいを創出する。加えて、本事業を通じて、市民が自ら本市の魅力をデザインし、発信することを通して、シビックプライドの醸成及び新たな担い手の創出につなげていく。
事業概要	<p>低未利用の公共空間の利活用を図るだけでなく、空き店舗を活用したまちづくり拠点も加えて、中心市街地の活性化を図っていくため、新たに4期生となる学生メンバーも募集し、引き続き社会実験を通して、更なる市民協働の取組の推進を図った。</p> <p>【令和6年度】</p> <ol style="list-style-type: none"> ①市民の手によるまちづくり社会実験の実施 対象地:真岡地区中心市街地、二宮地区中心市街地 ②地元事業者とのイベントの開催 ③学生(高校生、大学生、専門学校生)を対象として、4期生となるメンバーを募集し、学生の目線での社会実験の実施及び新たな担い手の育成等を図った。(※本申請とは別事業) ④昨年度新たに空き店舗を活用して整備したまちづくり拠点を活用し、公共空間の利活用に留まらない新たな活動を計画し、市民等のまちづくり活動の更なる推進を図った。 <p>【関係人口】I-a,d プロジェクトの参加者に宇都宮大学生など市外在住メンバーもいることから、市内、市外2つの目線で真岡市の魅力を創出することができた。また、学生目線での情報発信が行えることから、若者など普段真岡に訪れない層への誘客なども期待される。</p> <p>【令和7年度】 令和3～6年度の活動を元に継続して取り組みを進める。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標… 真岡市へ新しいひとの流れをつくる、安心して暮らしやすい時代に合った地域をつくる 移住・定住の促進に向けて、本市ならではの産業、居住環境、自然環境等の特性や魅力を積極的に発信するとともに、市民主体の活力ある地域づくり等を推進する。</p> <p>【重要業績評価指数(KPI)】社会増減率 0.07%(平成30年度)→0.15%(令和6年度)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	4年度	5年度	6年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	真岡まちづくりプロジェクトとして、令和3年度から引き続き、社会実験による中心市街地活性化を図る。	真岡まちづくりプロジェクトとして、令和4年度から引き続き、社会実験による中心市街地活性化を図る。	真岡まちづくりプロジェクトとして、令和5年度から引き続き、社会実験による中心市街地活性化を図る。		真岡まちづくりプロジェクトとして、令和6年度から引き続き、社会実験による中心市街地活性化を図る。
事業費	755,937	392,370	265,078	1,413,385	
市町支出金 (ソフト事業分)	755,937	392,370	265,078	1,413,385	
うち県交付金	323,673	161,679	95,189	580,541	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	0	0	0	0	0

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	
担当者名	
電話	
連絡先 FAX	
E-mail	

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	真岡市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	真岡まちづくりプロジェクト事業	
対象年度	6	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市交付金	265,078	真岡市交付金
計	265,078	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償金	57,500	57,500	28,750	0	社会実験協力者への謝金
旅費	0	0	0	0	社会実験協力者の交通費
消耗品費	53,422	53,422	26,711	0	社会実験消耗品費
食糧費	74,698	74,698	0	0	社会実験等の茶菓子費
印刷製本費	0	0	0	0	社会実験広告チラシ印刷費
手数料	18,000	18,000	9,000	0	振込手数料等
保険料	0	0	0	0	社会実験等イベント保険料
委託料	0	0	0	0	社会実験設営等委託
使用料及び賃借料	0	0	0	0	社会実験会場使用料 同機器リース代
工事請負費	0	0	0	0	社会実験会場設営工事費
原材料費	35,759	35,759	17,879	0	社会実験原材料
備品購入費	25,699	25,699	12,849	0	社会実験備品購入費
計	265,078	265,078	95,189	0	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	もおか木綿フェスタ
事業主体の名称	真岡商工会議所
代表者の名称	真岡商工会議所 会頭 篠原 宣之
事業主体の所在	〒321-4305 真岡市荒町1203番地
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:地区内における商工業者の共同社会を基盤とし、商工業の総合的な改善発達を図り、兼ねて社会一般の福祉の増進に資し、もって我が国商工業の発展に寄与することを目的とする。 ・設立年月日:昭和35年8月27日 ・構成員等:本商工会議所の地区内で事業活動を行う団体及び自己の名をもって事業活動を行う個人
当該事業に係る地域の現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代に隆盛を極めた「真岡木綿」は、真岡市を代表する地域資源であるが、後世に継承していくには市内外に真岡木綿の魅力を発信し、担い手の確保を図っていく必要がある。 ・コロナ禍により観光入込客数は減少している中、アフターコロナを見据え中心市街地に賑わいを創出するためには商店街と観光資源(真岡木綿、SL、文化財など)が連携して誘客を促進していく必要がある。
事業目的	<p>イベント来場者に機織りなど様々な体験や真岡木綿の製品の展示販売などを通して真岡木綿のPRを図るとともに商工会議所、商店会連合会、観光協会が連携して取り組むことで賑わいの創出及び観光誘客の促進を図り、市内外の来訪者に本市の魅力を感じてもらう。本イベントを通して真岡木綿等の魅力を知ってもらうことで、織姫の確保や市民の郷土愛の醸成を図るとともに、市外からの交流人口・関係人口の増加につなげ、地域の活性化につなげる。</p>
事業概要	<p>【令和6(2024)年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①金鈴荘での織姫の作品発表・真岡木綿製品の展示販売 ②真岡木綿の機織り体験等 ③商店会連合会と連携した抽選会 ④真岡市観光協会との連携(「着物でまちあるき」) <p>ポスター等を市内商業施設に掲示することで、広く市民への周知を行うことで「真岡木綿」へ触れ合う機会の創出を図るとともに、本年度は真岡市市制施行70周年の記念式典及び市内パレードと同日開催としたことで、式典やパレード参加者に対し「真岡木綿」のPRを行った。また、市公式SNS等を活用することで市外に向けた情報発信も行い、来訪者の増加を図った。</p> <p>【関係人口】I-a,d 市内外から人を呼び込み「真岡木綿」の魅力を知らってもらうことで、担い手の確保に図るとともに、イベントを通して来場者に中心市街地を周遊してもらうことで、地元商店街の賑わいの創出等につなげる。</p> <p>【令和7年度以降】 令和5、6年度の活動を元に継続して取組を進める。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【基本目標】真岡市へ新しいひとの流れをつくる 【KPI】年間観光入込客数 299万人(平成30年度)→305万人(令和6年度)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	①金鈴荘での織姫の作品発表・真岡木綿製品の展示販売 ②真岡木綿の機織り体験等 ③商店会連合会と連携した抽選会	①金鈴荘での織姫の作品発表・真岡木綿製品の展示販売 ②真岡木綿の機織り体験等 ③商店会連合会と連携した抽選会	①金鈴荘での織姫の作品発表・真岡木綿製品の展示販売 ②真岡木綿の機織り体験等 ③商店会連合会と連携した抽選会		①金鈴荘での織姫の作品発表・真岡木綿製品の展示販売 ②真岡木綿の機織り体験等 ③商店会連合会と連携した抽選会
事業費	819,070	806,852	1,100,000	2,725,922	1,100,000
市町支出金(ソフト事業分)	734,870	736,352	1,000,000	2,471,222	1,000,000
うち県交付金	367,435	353,610	500,000	1,221,045	
市町支出金(ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	84,200	70,500	100,000	254,700	100,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	
担当者名	
電話	
連絡先 FAX	
E-mail	

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	真岡市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	もおか木綿フェスタ	
対象年度	6	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市補助金	736,352	
体験参加料	70,500	
計	806,852	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市	町		
消耗品費	91,196	91,196	45,598	0	事務費用消耗品(事務費) 設営用備品(会場費(作品展))
燃料費		0	0	0	
食糧費	29,131	29,131	0	0	弁当及び飲み物
広告費	247,770	247,770	123,885	0	広告宣伝費(PR広告)
手数料	51,510	51,510	25,755	0	振込手数料・クリーニング(雑費)
委託料	276,117	205,617	102,808	70,500	体験事業、商工会議所周遊事業 (事業費)、警備費
使用料及び賃借料		0	0	0	
印刷製本費	111,128	111,128	55,564	0	広告宣伝費(ポスター、ポストカード印刷)
				0	
				0	
計	806,852	736,352	353,610	70,500	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業調書)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	真岡いちごまつり
事業主体の名称	真岡いちごまつり実行委員会
代表者の名称	会長 小林 聡
事業主体の所在	〒321-4395 真岡市荒町5191番地
事業主体の概要	<p>・団体の目的:いちご狩りを主体とする地産地消を含めた事業を計画し、「いちご日本一」を誇りとする市民の協働による「いちごまつり」を開催すること</p> <p>・設立年月日:平成18年3月30日</p> <p>・構成員等:(1)市内及び芳賀郡内に在住、在勤、在学する者で本会の目的に賛同する者又は組織、団体等</p> <p>(2)市内においていちごを生産する者及び市内に在住していちごを生産する者で本会の目的に賛同する者</p> <p>(3)その他、実行委員会に必要と認められる者</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	日本一のいちごの産地として、54年連続1位を誇る栃木県の骨幹を担う本市では、生産技術の向上により単収を上げ、いちごの販売額も年々増加の一途を辿っている。しかし、少子高齢化の進展に伴い、近年、後継者不足や離農者の増加により、生産者数は減少の一途を辿っており、交流人口の増加等により、新規就農者及び帰農者の確保を図っていくことが喫緊の課題となっている。
事業目的	生産者と市民のつながりを強化するとともに農工商が一体となった地域の団結力の醸成を図り、併せて地域資源を活かした市の活性化を図ること
事業概要	<p>【令和6年度】</p> <p>日程:令和6年5月19日(日)</p> <p>会場:真岡市二宮コミュニティセンター</p> <p>内容:各種イベント、模擬店出店、いちごを始めとした農産物等の販売、尊徳太鼓の演奏等を実施した。事前にいちご狩りに応募され当選した1,500名は、会場からシャトルバスを利用し市内のいちごハウスでのいちご狩りに参加できる。令和6年度はメインとなる会場を二宮コミュニティセンター南の芝生広場から北側駐車場へと変更し、芝生広場をフリースペースとして提供することことで、いちご狩り参加者をはじめイベント参加者の滞在時間の増加を図った。</p> <p>※いちご狩りは、60分間食べ放題で、大人1箱・子ども1パックの持ち帰りができる。</p> <p>※令和6年度より、いちご狩りの申込み方法について、インターネットの専用ページ、往復はがき、FAXの3種類を設けた。</p> <p>※令和6年度より、いちご狩りの参加料の支払い方法を、当日現金払いに加えて、事前の口座振込の方法を設けた。</p> <p>※真岡市農産物販売交流施設がしら(あぐ里っ娘)と道の駅にのみやにおいていちご関連イベントを同日開催</p> <p>・イベント終了後(R6.5月下旬～R7.3月まで)には、次年度へ向けての実行委員会及び役員会等を2か月に1回程度開催した。</p> <p>【関係人口の分類型】I-a,d,e</p> <p>近隣市町を含めて多くのいちご狩りへの応募があることから、本イベントを契機に市外から人を呼び込み、「いちご王国栃木の首都 もおか」の魅力の発信を行う。また、別会場での関連イベントの開催することで、農工商親が連携して地域の活性化を図り、交流人口・関係人口の増加につなげるとともに本市の農産物の魅力に継続的に触れる機会を創出し、真岡市産の農産物への関心を引き付けることで就農関心層の裾野の拡大につなげる。</p> <p>【令和7年度以降】</p> <p>令和6年度の実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図っていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】いちごを核とした都市と農村との交流促進</p> <p>【KPI】真岡市を「いちごのまち」とイメージする市民の割合H30 51.0%→R6 70.0%【R3実績59.1%】</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	真岡いちごまつりの開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等	真岡いちごまつりの開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等	真岡いちごまつりの開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等		真岡いちごまつりの開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等
事業費	3,685,580	4,450,240	4,143,000	12,278,820	4,143,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,680,000	2,000,000	1,680,000	5,360,000	1,680,000
うち県交付金	840,000	1,000,000	840,000	2,680,000	
市町支出金 (ハード事業分)				0	
うち県交付金				0	
その他自主財源等	2,005,580	2,450,240	2,463,000	6,918,820	2,463,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	
担当者名	
電話	
FAX	
E-mail	

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	真岡市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	真岡いちごまつり	
対象年度	6	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市補助金	2,000,000	真岡市補助金 2,000,000円
協賛金	660,000	JALいちご部会 他
事業収入	1,512,500	いちご狩り参加費
繰越金	277,649	前年度繰越金
雑収入	91	預金利息等
計	4,450,240	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	1,264,570	80,000	40,000	1,184,570	協力者謝礼 (ハウス協力費+報償費)
消耗品費	129,878	50,000	25,000	79,878	事務用品等(消耗品費)
食糧費	138,001	0	0	138,001	会議食糧費、 当日協力者食糧費等
印刷製本費	81,730	0	0	81,730	チラシ、ポスター印刷代
通信運搬費	27,598	0	0	27,598	郵送料
保険料	43,880	40,000	20,000	3,880	参加者保険料(諸費の一部)
委託料	406,685	300,000	150,000	106,685	費の一部)、清掃委託料(諸費の 一部)
使用料及び賃借料	1,696,970	1,530,000	765,000	166,970	テント、仮設トイレ、バス借上料(委 託費の一部)
原材料費	28,500	0	0	28,500	案内看板用材料
予備費	0	0	0	0	
R7へ繰越	632,428	0	0	632,428	
計	4,450,240	2,000,000	1,000,000	2,450,240	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業調査書)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	真岡市音楽祭
事業主体の名称	真岡市音楽祭実行委員会
代表者の名称	会長 小田 克明
事業主体の所在	真岡市荒町5191番地
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> 団体の目的:市民の音楽文化活動への参加意欲を喚起し、地域文化の交流・発展に寄与する 設立年月日:平成8年 構成員等:真岡市内で活動している音楽団体等
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>平成7年に開催された国民文化祭吹奏楽の祭典を契機に、翌年の平成8年に第1回を開催し今年度28回目を迎える。多くの市民が音楽に親しむことができる事業であり、未就学児から一般音楽団体まで幅広い年齢層が出演し、コンクール形式をとらない出演者も観客も音楽を自由に楽しむことができる音楽祭として定着している。また、クラシックや和楽器、オカリナなど幅広いジャンルの演奏を行う団体が出演しており、多様な演奏を楽しむことができる機会となっている。</p> <p>一方で、自主的な音楽文化活動については、団員の高齢化や少子化による若年層の活動機会の減少などの課題があり、継続するためには、音楽文化活動の担い手の裾野を広げていく必要がある。さらには、近年のコロナ禍により各種イベントが開催を見送られることによる音楽文化活動に対する意欲の減退も懸念される。今後いかにして参加者や会員数を増やし、市民のだれもが文化芸術に触れ、親しむ機会を確保・拡充し、誇りと愛着の持てる地域コミュニティを築き、維持していくかを検討していく必要がある。</p>
事業目的	<ul style="list-style-type: none"> 市民の音楽文化活動への参加意欲を喚起する。 地域文化の交流・発展に寄与する。 市民主体の運営組織活動により、市民の郷土愛と地域住民の連帯感を深める。 広域に事業を周知し本地域の知名度を高め、観光等による訪問や地域移住などの機運を高める。
事業概要	<p>【令和6年度】</p> <p>コロナ禍前は1日で実施していたが、リスク管理の面から令和5年度に引き続き2日間で開催した。コロナ禍で制限していた参加可能な対象団体の制限を撤廃し公募を行った。</p> <p>◎音楽祭の開催(令和6年11月9日(土)・10日(日))</p> <p>未就学児による和太鼓の演奏、小中学生による吹奏楽及び金管バンド演奏、高校生による吹奏楽および合唱、一般団体による様々なジャンルの演奏</p> <ul style="list-style-type: none"> 参加人数 約1,366人 参加団体 市内の幼稚園・保育園・認定こども園、小中学校、高等学校、本市に活動拠点を置く一般音楽団体 20団体 <p>○開催前の主な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和6年6月 第1回実行委員会 開催方法の決定及びホール練習の日程調整 令和6年8月 ホール練習開始 令和6年9月 第2回実行委員会 演奏曲目決定、プログラム編成 ホール練習開始 令和6年9月 ポスター・チラシ等による広報活動開始(ポスター100枚、チラシ3,000枚 県内文教施設等) 令和6年11月 リハーサル <p>《音楽文化活動への参加意欲向上の取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 未就学児から一般音楽団体まで幅広い年齢層の団体が、クラシックや和楽器など多様なジャンルを演奏・発表する音楽祭を、出演者自ら企画運営し、音楽を楽しむことを市民と広く共有した。 令和6年度は新たに参加団体の募集を行い、市民の音楽文化活動への参加意欲を高めた。 <p>《地域文化の交流・発展の取組》</p> <p>市内の小中学校や高校がそれぞれ合同演奏を行い、他校の児童生徒との貴重な交流の機会となっており、一般の団体も出演するため、演奏の仲間づくりができるとともに、世代を超えた地域との繋がりがより深まった。</p> <p>また、参加団体を広く公募することで、参加者の増加を図り、更なる地域文化の振興と発展に寄与できた。</p> <p>《真岡市に興味を持つ》</p> <ul style="list-style-type: none"> 真岡市の魅力PR…各種イベントチラシの配布 音楽文化活動とおした市民協働の取り組みについて、SNSを活用し報発信を行った。 <p>【令和7年度以降】</p> <p>令和6年度の実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業継続を図っていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>○基本目標2 真岡市へ新しいひとの流れをつくる 【KPI】年間観光入込客数 平成30年度299万人 → 令和6年度305万人</p> <p>○基本目標4 安心で暮らしやすい時代に合った地域をつくる 【KPI】自治会加入率 平成30年度74.72% → 令和6年度70.0%以上</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	音楽祭の開催 ・参加団体受付 ※登録全団体参加 ・プログラムの作成 ・広報宣伝等	音楽祭の開催 ・参加団体受付 ※登録全団体参加 ・プログラムの作成 ・広報宣伝等	音楽祭の開催 ・参加団体受付 ※登録全団体参加 ・プログラムの作成 ・広報宣伝等		音楽祭の開催 ・参加団体受付 ※登録全団体参加 ・プログラムの作成 ・広報宣伝等
事業費	2,071,892	2,236,449	3,100,000	7,408,341	3,100,000
市町支出金 (ソフト事業分)	1,936,868	2,129,449	3,000,000	7,066,317	3,000,000
うち県交付金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	135,024	107,000	100,000	342,024	100,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	
担当者名	
電話	
連絡先 FAX	
E-mail	

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	真岡市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	真岡市音楽祭	
対象年度	6	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
真岡市交付金	2,128,415	真岡市音楽祭開催交付金
協賛金	107,000	
預金利子	1,034	
計	2,236,449	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	57,000	0	0	57,000	協力者謝礼
消耗品費	126,875	126,875	14,000	0	事務用品等
食糧費	71,830	21,830	0	50,000	会議食糧費、 当日協力者食糧費等
印刷製本費	161,700	161,700	80,000	0	チラシ、ポスター、プログラム等 印刷代
通信運搬費	32,204	32,204	16,000	0	郵送料(手数料)
保険料	0	0	0	0	参加者保険料等
委託料	1,786,840	1,786,840	890,000	0	舞台音響照明業務委託、児童生 徒送迎業務委託、楽器搬送業務 舞台備品等
備品費	0	0	0	0	
予備費	0	0	0	0	
計	2,236,449	2,129,449	1,000,000	107,000	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	桜町陣屋跡ふれあい保存と活用事業(尊徳さんの田んぼで米づくり体験事業)
事業主体の名称	史跡桜町陣屋跡の保存と活用を考える会
代表者の名称	会長 猪野 忠秀
事業主体の所在	栃木県真岡市物井166-1
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・団体の目的:国指定史跡「桜町陣屋跡」の保存と有効な活用を考え、広くに二宮尊徳の功績を後世に伝えていくもの ・設立年月日:平成21年1月 ・構成員等:団体会員5団体(二宮報徳会、一円融国会、桜町二宮神社氏子会、東物井管理組合、東物井区会)
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>「桜町陣屋跡」は江戸時代に二宮尊徳が在陣し、「報徳仕法」と呼ばれる手法を生み出し、農村復興を行った拠点として国史跡に指定されている。文化財としてこの史跡を保存・保護していくことが課題であり、そのためには地域住民の理解と協力が欠かせない。</p> <p>また、二宮尊徳の教えは道徳的で堅苦しいと長く誤解されてきた経緯がある。実際は合理的で先進的であり、現代のSDGsにも通じるものがある。若い人を中心に広くわかり易く二宮尊徳の教えを伝える場として、尊徳が耕した報徳田をはじめ、周辺の農地を耕作地として継承し、生きた田園景観を残していく必要がある。</p>
事業目的	<p>「史跡桜町陣屋跡の保存と活用を考える会」を中心に、JA未来ちゃんクラブ、真岡北陵高校などが協力して、一般市民に有機無農薬による昔ながらの米づくり体験をしながら、食の大切さや自然の恵みと厳しさを感じ、二宮尊徳を知る機会とし、また「報徳仕法」を学ぶ機会を与えることで、史跡の本質的価値を継承するとともに、「報徳仕法」の担い手の育成を図る。また、子どもたちや高校生などと協働で米づくり体験を行うことで、報徳田を始めとしたふるさと真岡の田園風景の魅力を伝え、参加者の郷土愛を育む取組とする。</p>
事業概要	<p>【令和6年度】 今年度は体験事業18年目であった。参加者は、一般18家族60名、JAはが野二宮支店未来ちゃんクラブ15名、県立北陵高校生ボランティア52名であった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回プログラム 田植え・サツマイモ苗植え 5月26日、総勢約200名参加 ・第2回プログラム かかし作り・かかしコンテスト 7月7日、総勢約150名参加 ・第3回プログラム 稲刈り・サツマイモ掘り 9月29日、総勢約200名参加 ・第4回プログラム 収穫祭(表彰、北陵高校生による紙芝居) 11月10日、総勢約200名参加 ・毎月第1水曜日に定例会開催 <p>○今年度は、JAはが野二宮支店の協力で、米づくりのほか、サツマイモ栽培を行った。 ○今年度はカメムシの被害により、収穫量が3倍ほど減ったため、真岡大産業祭での配布を取りやめた。 ○昼食用の昨年度収穫米が60kg余ったので、真岡市社会福祉協議会の善意銀行に寄贈した。</p> <p>【令和7年度以降】 令和8年度に計画している報徳サミット真岡市大会に向け、ハード面(桜町陣屋跡の環境整備)・ソフト面(サミットの催しへの参加)での協力と参加方法を検討する。 有機無農薬を維持しつつ、カメムシの対策を行い、収穫量を復活を目指す。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>基本目標:真岡市へ新しいひとの流れをつくる KPI:社会増減率 0.07%(平成30年度) → 0.15%(令和6年度)</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	5年度	6年度	7年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	桜町陣屋跡ふれあい保存と活用事業 ・田植え ・カカシ作りコンテスト ・収穫祭	桜町陣屋跡ふれあい保存と活用事業 ・田植え ・サツマイモ植え ・カカシ作りコンテスト ・収穫祭	桜町陣屋跡ふれあい保存と活用事業 ・田植え ・カカシ作りコンテスト ・収穫祭		桜町陣屋跡ふれあい保存と活用事業 ・田植え ・カカシ作りコンテスト ・収穫祭
事業費	753,289	756,016	728,907	2,238,212	728,907
市町支出金(ソフト事業分)	400,000	400,000	400,000	1,200,000	400,000
うち県交付金	200,000	200,000	200,000	600,000	
市町支出金(ハード事業分)	0			0	
うち県交付金	0			0	
その他自主財源等	353,289	356,016	328,907	1,038,212	328,907

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	
担当者名	
電話	
連絡先 FAX	
E-mail	

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	真岡市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	桜町陣屋跡ふれあい保存と活用事業(尊徳さんの田んぼで米づくり体験事業)	
対象年度	6	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
会費	25,000	団体会員5,000円×5
事業参加費	128,000	大人3,000円×29名 こども1,000円×41名
寄付金	60,091	推譲金
補助金	400,000	真岡市補助金
繰越金	142,907	令和5年繰越
雑入	18	
計	756,016	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市町交付金	県交付金		
報償費	60,000	0	0	60,000	尊徳太鼓謝礼(田植え、収穫祭) (事業費の一部)
消耗品費	488,701	357,000	178,500	131,701	田植え時材料費、案山子づくり材 料費、収穫祭商品等(事業費の一 部)
保険料	21,000	10,000	5,000	11,000	参加者・ボランティア作業保険(事 業費の一部)
通信運搬費	27,542	13,000	6,500	14,542	会員通知用ハガキ、封筒(通信事 務費)
食糧費	79,635	0	0	79,635	役員お茶代、作業時食糧費
使用料	0	0	0	0	公民館使用料
補助金	0	0	0	0	報徳サミット参加費
備品購入費	41,394	20,000	10,000	21,394	足洗い場整備
予備費	0	0	0	0	
R7へ繰越	37,744	0	0	37,744	
計	756,016	400,000	200,000	356,016	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	真岡井頭マラソン大会
事業主体の名称	真岡井頭マラソン大会実行委員会
代表者の名称	委員長 山中 孝雄
事業主体の所在	〒321-4325 真岡市田町1251番地1 真岡市総合体育館内スポーツ振興課
事業主体の概要	<p>・団体の目的: マラソンを通して市民の健康づくりや人とのふれあいの場を提供するとともに、本市のPRの場とすることを目的とする。</p> <p>・設立年月日: 昭和59年</p> <p>・構成員等: 市スポーツ協会陸上部、市スポーツ協会、市スポーツ推進委員会、市内小中学校代表、真岡ファミリー楽走会、井頭公園管理事務所、市職員等</p>
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>本大会は、今年で第41回を迎え、市内をはじめ関東地区を中心に全国各地の多くのマラソン愛好者から親まれ、参加人数約2,000人におよぶ本市の秋の一大イベントとして定着してきた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により3年連続で大会が中止となり、4年振りの開催となった昨年の参加者は、前回大会から2割以上減少してしまった。今後、大会を開催するにあたり参加者の再定着及び集客促進を図っていく必要がある。</p> <p>また、本市では、井頭周辺エリア(いがしらリゾート)の活性化を進めており、大会を通じて周辺施設を知ってもらい、消費拡大や地域活性化に結びつけていくかが課題である。</p>
事業目的	「市民ひとりスポーツ」の推進と生涯スポーツの振興を図るとともに、本市のPRや魅力を積極的に発信し、市外から本市を訪れるきっかけをつくり、来場者に興味をもってもらい、交流人口を増加させることで地域の活力の向上や地域産業の活性化につなげる
事業概要	<p>【令和6年度】</p> <p>◎真岡井頭マラソン大会の開催【関係人口:I-d】</p> <p>下線部の内容を追加し、以下の事業を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日: 令和6年10月13日(日) ・種目: 一般10km・4km 中学生4km 小学生5・6年2km 親子ペア2km 計15部門 ・参加人数: 1,741人(市内486人、県内864人、県外391人) ※エントリー数 ・コース: 井頭公園及びその周辺道路 <p>《真岡市を訪れるきっかけ》</p> <ul style="list-style-type: none"> ○集客(広告・宣伝) <ul style="list-style-type: none"> ・チラシ3,500枚、ポスター150部作成。(益子芳星高等学校、茂木高等学校、上三川高等学校、上三川町立中学校数校、栃木県体育館、栃木県総合運動公園、スポーツショップ、下野新聞社、読売新聞社、とちぎテレビ等) ・HPに掲載 ○真岡市に興味を持つ <ul style="list-style-type: none"> ○来場者に対し、真岡市の魅力PR…観光パンフレットの配布 中心市街地や観光地に足を運んでもらえるよう観光パンフレットを配布。また井頭公園に隣接する井頭温泉・チャットパレス(宿泊施設)・あぐりっ娘(井頭フレッシュ直売所)に気軽に立ち寄ってもらえるよう観光パンフレットを配布し、マラソン大会以外でも楽しめることをPRし、何度も遊びに来てもらえるよう魅力を発信した。 ○観光PRできるブース設置 特産物やグッズ、いちごを使った商品の販売 ○入賞や参加賞とは別に特別賞を設け、本市で生産された米や農産物を贈呈 ○シティプロモーションによる真岡市の魅力PR…移住・定住者向け情報冊子等の配布 ○市公式Instagramに真岡の魅力を投稿し、写真を通して情報発信した。 ○いがしらリゾートのSNSを活用して情報を発信するなど、連携を図ることで周辺施設の活性化にもつなげた。 ○総合運動公園(陸上競技場・多目的広場・子ども広場・健康広場)のPR ○市制施行70周年記念大会として、ゲストランナーを招致し、大会を盛り上げ参加者増加につなげた。また、参加者への記念品の無料配布やキッチンカーを依頼し賑わいを創出した。 <p>【令和7年度以降】</p> <p>令和6年度実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図る。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】真岡市へ新しい人の流れをつくる</p> <p>【KPI】年間観光入込客数 平成30年:299万人 → 令和6年:305万人</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	マラソン大会開催 ・エントリー受付 ・コースの安全管理	マラソン大会開催 ・エントリー受付 ・コースの安全管理	マラソン大会開催 ・エントリー受付 ・コースの安全管理		マラソン大会開催 ・エントリー受付 ・コースの安全管理
事業費	6,945,057	8,805,746	7,330,000	23,080,803	7,330,000
市町支出金 (ソフト事業分)	2,236,000	2,936,000	2,236,000	7,408,000	2,236,000
うち県交付金	1,118,000	1,468,000	414,000	3,000,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0			0	
うち県交付金	0			0	
その他自主財源等	4,709,057	5,869,746	5,094,000	15,672,803	5,094,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	
担当者名	
電話	
連絡先 FAX	
E-mail	

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	真岡市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	真岡井頭マラソン大会	
対象年度	6	年度

1 収入の部

科目	予算額 (精算額)	備考
市補助金	2,936,000	真岡市補助金
参加料	4,917,500	大会参加者 一般 3,500円 × 1,198人 = 4,193,000円 親子 2,500円 × 180組 = 450,000円 中学生 1,500円 × 115人 = 172,500円 小学生 1,500円 × 68人 = 102,000円
繰越金	567,222	前回繰越金
雑入	385,024	広告料、預金利子等
計	8,805,746	

2 支出の部

科目	予算額 (精算額)	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		県交付金			
報償費	3,393,741	700,000	350,000	2,693,741	参加賞、トロフィー、親子メダル、特別賞、交通指導員謝礼等
旅費	24,530	0	0	24,530	事務用品、大会用医薬品等
消耗品費	437,077	0	0	437,077	事務用品、大会用医薬品等
燃料費	0	0	0	0	
食糧費	430,234	0	0	430,234	昼食弁当代、スポーツドリンク、救護用飲料等
印刷製本費	853,600	400,000	200,000	453,600	開催要項3,500枚、ポスター150枚、プログラム2,000枚、封筒等3,000枚
通信運搬費	137,034	0	0	137,034	要項送料、参加通知書送料
手数料	0	0	0	0	両替手数料
委託料	2,386,169	1,136,000	568,000	1,250,169	エントリー計測業務、エントリー受付業務、花火打上等
使用料及び賃借料	952,380	700,000	350,000	252,380	テント等各種備品賃借料
工事請負費	0	0	0	0	
備品購入費	0	0	0	0	大会運営備品
予備費	0	0	0	0	
R7へ繰越	190,981	0	0	190,981	
計	8,805,746	2,936,000	1,468,000	5,869,746	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業調査)
【単独事業】

市町名	真岡市
事業名	栃木SC支援事業
事業主体の名称	栃木SC支援真岡市実行委員会
代表者の名称	委員長 岡本 俊夫
事業主体の所在	〒321-4325 真岡市田町1251番地1 真岡市総合体育館内スポーツ振興課
事業主体の概要	<ul style="list-style-type: none"> 団体の目的: 栃木SCの豊かな経験と卓越した技術をもとに、夢を持つことの大切さ、フェアプレー精神の重要性など、サッカーから様々なことを感じ学ぶとともに本市のPRの場とすることを目的とする。 設立年月日: 平成20年 構成員等: 市サッカー協会、市商工会議所、市観光協会、市工業団地総合管理協会、栃木SC、市教育委員会
当該事業に係る地域の現状と課題	<p>主要事業として、栃木SCホームゲームにおける「真岡市民デー」と「栃木SCサッカー教室」があり、いずれも今年で第17回を迎える。「真岡市民デー」は、参加者数約600人の無料観戦イベントであり、バスツアーや物産ブースでの本市特産品の販売などを行っている。「栃木SCサッカー教室」は、参加者約100名の市内小学生および親子参加による栃木SCの選手・コーチによるサッカー教室である。近年では、新型コロナウイルス感染拡大による入場制限試合やサッカー教室の中止を受けて参加者数が減少しており、今後の参加者数がコロナ前と同様に戻し、いかに増やしていくかが課題である。</p> <p>また、少子高齢化・人口減少が進む中、本イベントを通じて、真岡市の魅力発信を行い消費拡大や地域活性化に結びつけていくこととともに、いかに子どもたちの郷土愛の醸成を図るなどの振興施策を図っていく必要がある。</p>
事業目的	<p>「市民ひとり1スポーツ」をスローガンにスポーツの振興を推進し、「する」「観る」「支える」スポーツを通して、青少年の健全育成を図るとともに、イベントを通じて本市のPRや魅力を積極的に発信し、市外から訪れる来場者に興味をもってもらい、交流人口を増加させることで地域の活力の向上や地域産業の活性化につなげる。</p>
事業概要	<p>【令和6年度】関係人口I-d ◎真岡市民デー(第17回)の開催 下線部の内容を追加し、以下の事業を開催した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 期 日: 7月14日(日)19時キックオフ 会 場: カンセキスタジアムとちぎ 対 戦: フェジアーノ岡山(J2リーグ24節) 招待者: 一般招待(市内小学生サッカーチーム、市内中学校サッカー部、市内小中学生(公募、保護者)、市関係者) バスツアー: 一般参加者並びに招待者の会場への送迎 各種PR: 真岡市ブースにて、観光PR・特産品の販売・抽選会の実施 真岡市ゆるキャラでのPR <p>○イベントについて市広報誌のみならず市公式SNS等を活用することで、市内外に広くスポーツで盛り上がる本市の魅力を発信した。</p> <p>○真岡市民デーのバスツアーに参加した市民に市制施行70周年記念応援用グッズを配布することで、スタジアムで一体となって盛り上がるスポーツの楽しさも伝えるとともに、他の観客にスポーツで盛り上がる真岡市の魅力を発信につなげた。</p> <p>○真岡市民デーにおいて、市制施行70周年を記念した各種取り組みを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バナー広告等の70周年ロゴ使用版への変更 ・記念応援グッズの配布 ・記念横断幕を使用し、子供たちによるフェアプレーフラッグの実施 <p>【令和7年度以降】 令和6年度実施内容と集客結果を踏まえ、PDCAサイクルによる効果的な事業実施を図っていく。</p>
事業に係る市町総合戦略の目標及びKPI	<p>【目標】結婚、妊娠・出産、子育ての希望をかなえ、だれもが活躍できる地域社会をつくる</p> <p>【KPI】真岡市で子育てしたいと思う親の割合 平成30年:96.7% → 令和6年度:98.0%</p>

各年度ごとの事業内容及び事業費の内訳

(単位:円)

	令和5年度	令和6年度	令和7年度	支援期間の 事業費計	支援期間の 翌年度
事業内容	真岡市民デーの開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等 栃木SCサッカー教室の開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等	真岡市民デーの開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等 栃木SCサッカー教室の開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等	真岡市民デーの開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等 栃木SCサッカー教室の開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等		真岡市民デーの開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等 栃木SCサッカー教室の開催 ・参加者の申込受付 ・広告宣伝等
事業費	1,110,370	1,158,080	1,134,000	3,402,450	1,134,000
市町支出金 (ソフト事業分)	600,000	600,000	600,000	1,800,000	600,000
うち県交付金	300,000	300,000	300,000	900,000	
市町支出金 (ハード事業分)	0	0	0	0	0
うち県交付金	0	0	0	0	
その他自主財源等	510,370	558,080	534,000	1,602,450	534,000

市町担当情報

担当課(グループ・係)名	
担当者名	
電話	
連絡先 FAX	
E-mail	

栃木県わがまちつながり構築事業実績書(単位事業収支精算書)

市町名	真岡市	※連携事業の場合は幹事市町名を記載すること。
単位事業名	栃木SC支援事業	
対象年度	6	年度

1 収入の部

科目	精算額	備考
市交付金	600,000	真岡市交付金
協賛金	175,000	
繰越金	383,024	前年度繰越金
雑入	56	預金利子等
計	1,158,080	

2 支出の部

科目	精算額	財源			備考
		市町支出額		自主財源等	
		市交付金	県交付金		
報償費	198,000	60,000	30,000	138,000	市民デー応援用グッズ代等
消耗品費	33,000	20,000	10,000	13,000	事務用品、サッカー教室用熱中症対策品等
食糧費	0	0	0	0	お茶代
印刷製本費	0	0	0	0	チラシ作成代
通信運搬費	0	0	0	0	切手代
手数料	330	0	0	330	
使用料及び賃借料	535,700	260,000	130,000	275,700	市民データベース借上料、市民デー受付テント等一式(借上料)
備品購入費	54,001	0	0	54,001	市民デー用レプリカユニフォーム代
補助金	280,000	260,000	130,000	20,000	市民デー物産出展費(市観光協会へ)(物産費)
雑費	0	0	0	0	
予備費	0	0	0	0	
R7へ繰越	57,049	0	0	57,049	
計	1,158,080	600,000	300,000	558,080	

科目欄には、原則地方自治法施行規則第15条別記の節(需用費、役務費は細節)の区分を用いてください。

具体的な支出内容については、備考欄に記入してください。

連携事業のうち、次に該当する場合は、様式1号-5も提出してください。

- 1 市町のみで事業を実施する場合
- 2 複数の地域づくり団体等に支出する場合